

## JISA ビジネス委員会企画

# 経営力醸成プログラムフォローアップ研修開催

令和8年3月5日に、JISA 会議室において経営力醸成プログラムフォローアップ研修が開催された。本研修は令和6年度に実施した経営力醸成プログラムのフォローアップとして、技術経営力・MOTの習得に向けた機会の創出・場の提供を行うため、JISA ビジネス委員会が企画したものである。参加者は17名であった。

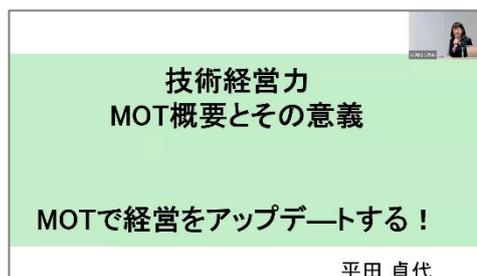
主催者挨拶では、JISA 副会長・ビジネス委員会委員長 長坂正彦氏（(株)ワイ・シー・シー 代表取締役社長）が「昨年度の経営力醸成プログラムに続き、多様なバックグラウンドを持つ参加者が一堂に会する機会を設けることができ嬉しく思う。参加者には本研修を受講し、自社の経営に留まらず業界全体のリード役として大きく羽ばたいて欲しい」と述べた。続いて、会長挨拶では JISA 会長 福永哲弥氏（SCSK(株) 参与 シニアフェロー）が「不透明な時代の転換点にある今こそ、技術をベースとした経営のリーダーシップが不可欠。受講者は「既に経営層である」という自覚と視座を持ち、新しい時代のイノベーションの水先案内人として活躍して欲しい」と述べた。その後、参加者が自己紹介を行った。



JISA 副会長・政策提言委員会委員長  
桑野徹氏（TIS(株)取締役会長）

続いて、JISA 副会長・政策提言委員会委員長 桑野徹氏（TIS(株)取締役会長）が「大変革期における価値観経営の必要性」をテーマに講演を行った。講演では、AIの非連続的進化などを背景とする大変革期において、定量的な「事業経営」に加えて定性的な「組織経営」の重要性が高まっており、企業という集団においてミッションや価値観を組織全体で共有するための「基本理念」が必要であると述べた。

平田貞代氏（芝浦工業大学・東北大学准教授）による「技術経営力・MOTの概要とその意義」では、日本が「技術で勝ってビジネスで負ける」現状を打破する「技術経営（MOT）」の重要性が解説された。過去の分析を重視する従来の経営学とは異なり、MOTは不確実な環境下で技術を活かし、売れる商材や機会を創り出すための「動的な思考法」であり、AIが普及した今、社会人教育・実践伴走型の「シンMOT」へと移行し、環境の変化に合わせて経営をアップデートしていくべきであると述べた。



平田貞代氏  
芝浦工業大学・東北大学准教授

講演後、懇親会が開催され、閉会挨拶を JISA 副会長・ビジネス委員会委員長 長坂正彦氏（(株)ワイ・シー・シー 代表取締役社長）が行い閉会した。

（JISA 事務局）